

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「フレスタ、健康増進で県と支援協定」
- 2) 「京の老舗漬物店・西利、ラブレ乳酸菌総菜の製造販売へ」
- 3) 「三菱地所、入居者向けに鮮魚宅配 VBと提携」
- 4) 「VRによるショッピングサービス日本でもついに始まる」

1) 「フレスタ、健康増進で県と支援協定」

広島県と食品スーパーのフレスタは県民の健康増進で協力する。県は3月に健康診断の受診者に付与するポイントの導入を予定しており、これをフレスタの店舗で買い物に使えるようにする。

健康診断の案内や健康増進のポスターをフレスタ店舗に掲載するなど、県民への情報発信でも協力する。

20日に「健康寿命の延伸に関する連携協力協定」を締結する。健康増進の取り組みで県が民間企業と連携協定を結ぶのは今回が初めてという。

県は特定の健診などを受けた人に地域の小売店などで使える「ヘルスケアポイント」を付与する制度を始める予定だ。フレスタがその協力店の一つとして参加することを視野に入れている。

健康増進に関する連携や協定などは近年増えており、健康に対する意識も高まっていると感じる。特定の商品や贈呈品などではなく、ポイントとして使えるのは消費者にとってもありがたいので今後広まってほしい取り組みだ。健康診断の結果に準じたサービス内容でもおもしろいのではないだろうか。

2) 「京の老舗漬物店・西利、ラブレ乳酸菌総菜の製造販売へ」

京都市の老舗漬物店「西利」が、乳酸菌入りのサラダなど総菜の製造販売に乗り出す。「発酵生活」のブランドで、2月にまず高島屋京都店に出店する。その後は、東京などに直営店も出したい考えだ。

西利が使うのは、京都の伝統的な漬物「すぐき」を由来とする「ラブレ乳酸菌」。料理研究家の大原千鶴さんや料亭「木乃婦」の高橋拓児さんらと、乳酸菌入りの総菜を開発した。

食生活の変化もあり、漬物の市場は、ここ15年ほどで5000億円台から3000億円台に縮小した。西利は1994年にラブレ乳酸菌入りの「健康漬物」を発売したが、「あまり売れていない」（平井誠一社長）という。

ところが最近では乳酸菌が健康維持に効果があるとして、人気が高まっている。平井社長は、「総菜をきっかけに、伝統的な漬物などの発酵食品を見直す動きになればいい」と話す。

個人的にすぐきが好きでよく食べているが、若い世代にすぐきを積極的に食べるかと聞いてもそうそう手が挙がるものではないように思う。そのような中で、昔からあるものを形を変えて消費者に紹介するというのは効果的な手段の一つだ。有名なところでは中川政七商店が伝統工芸をリブランドしているが、このすぐきのように知っている人しか知らない、そんな

日本の伝統食というのはまだまだたくさんあると思うので、そうしたものにスポットを当てたお店やコーナーがあれば文化の継承や新たな発見につながって面白いと思った。

3) 「三菱地所、入居者向けに鮮魚宅配 VBと提携」

三菱地所はグループで販売したマンションの入居者向けに鮮魚の宅配サービスを始める。鮮魚流通サービス「羽田市場 超速鮮魚」を手掛けるVB、CSN地方創生ネットワーク（東京・大田）と資本・業務提携した。羽田空港内のCSNの物流拠点を活用し、全国から仕入れる鮮魚を水揚げ当日に届ける。

三菱地所は約2億円を投じて、CSNの第三者割当増資を引き受けた。追加出資も検討する。クール便で届く鮮魚の受け取りを物件に常駐するコンシェルジュが代行することを想定。居住者からの注文を受け、水揚げされた当日に全国から鮮魚が届く仕組みを構築する。注文方法や料金体系などは今後詰める。

2017年中に既存のマンションで試験的にサービスを開始。本格導入の第1弾は三菱地所が18年の完成を予定する東京都港区内のタワーマンションになる見通しだ。高級物件では付加価値向上のため、宅配便の受け取りやクリーニングの手配などで入居者の利便性を高める動きが広がっているが、鮮魚の宅配は珍しい。

今は高級物件だけではあるが、今後このようなマンション向けのサービスが増えてきそう。スーパーでも当日水揚げ鮮魚の扱いはあるので、通販でなくとも目で見て買える良さをアピールできれば十分実店舗でも需要があると感じた。

4) 「VRによるショッピングサービス日本でもついに始まる」

インテリアコーディネートショップSTYLICS（スタイリクス）を展開するフォー・ディー・コーポレーションは、2017年1月、日本初のVRによるショッピングサービスを家具・インテリアを対象として開始した。

また、個人では最大の買い物になる住居購入や賃貸の部屋探しにおいても、物件選びの際に使うVRのサービスも同時に開始。家具を置いてレイアウトした新居を、実際に住む前にVRで歩いて体感し、暮らしやすさを確認できるようになった。

スタイリクスでは、最適な家具選びの為に、3DシミュレーションによるレイアウトやカラーコーディネートがPCのディスプレイ上で行っていたが、今回VRが加わったことで、ディスプレイ上で見ていたものを「実物大」で確かめることが可能になった。

実物大で確かめることで

- ・家具のサイズ感が体感できる
- ・通路幅や距離など歩いて確認できる
- ・カラーの印象が実寸大で感じられる

など、ディスプレイの限界を超えた体験ができる。

例えば、家具のサイズによる通りやすさへの影響なども、ディスプレイで見ているだけだとピンとこないが、実際に歩いてみることで「確かにこれ以上狭かったら通りにくい！」と実感できるようになった。

さらに、同社が提供している家具レイアウトwebアプリSTYLEBOARDでも、これまではわかりにくかった家具を置いて生活が始まってからの「部屋の住みやすさ」を、事前に比較検討することができるサービスが始まった。

スタイルボードは、不動産情報サイトの間取図を取り込みその上で家具のレイアウトが簡単にできるPC用無料webアプリ。新しいサービスでは、自分がレイアウトした室内を新宿にあるスタイリクス店舗内の専用VRルームで実際に歩いて体感できる。異なるレイアウトの複数の部屋を色々な視点で比較することで、自分にじっくりくる部屋選びができる。

当たり前に出て来るであろうと予想できたサービスだが、実際の不動産情報から得た間取図を使えるとなるとさらに便利だと感じた。今までの3Dシュミレーションでは不可能だった「体感」が出来るようになれば家具だけでなく賃貸・購入物件の良し悪しも事前確認が出来るようになり失敗も少なくなるだろう。大きな買い物となる購入物件の際にはぜひとも事前確認しておきたい。